

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。【3~5年で資金3倍化を目指して】

ご案内 レポートの名称が長期投資から資産形成に変わりました。内容の変更はございません。明日のレポートを前倒ししてお届け致します。明日のレポートはございません。

先送りとなっていた暴落暗示が実現

昨日のNYダウは 297ドルの7552ドルとなって11/20の最安値と並ぶ

<期待ハズレのオバマ政権>

前回(2/5号)のレポートでは、NYダウで先送りとなっている1/14の暴落暗示がどこまでくるかとなりました。その後、金融安定化策として「バッドバンク設立」構想がでたことで、1/28(水)にNYダウは8405ドルまで買われ、柴田野線でいったん買法則が出現したことで暴落暗示は先送りになったとしました。そのため当面は三角保ち合いの中での動きになるとしましたが、オバマ政権が期待ほどのリーダーシップを発揮できず、早くも三角保ち合いを下放れし、昨日のNYダウは 297ドルの7552ドルとなって11/20の7552ドルと同値で引けました。

オバマ政権は、期待ハズレになってきています。まず景気対策法案は2月中旬までの早い時期に議会を通過させると発言していましたが、結果的には2/10(火)に9000億ドル規模を8000億ドルへ大幅減額され、やっと合意にたどりつき詰めは翌週に持ちこされました。(昨日、オバマ大統領が署名を終えて成立)又、金融安定化策の目玉であった「バッドバンク設立」構想は盛り込まれずそのかわりに民間投資家の資金を使った不良債権買い取り基金の設立を発表しましたが、不良資産の買い取り価格など不透明な部分が多くこの日のNYダウは 381ドルの7888ドルの失望売りとなり、三角保ち合いを下放れる形となりました。

日本のバブル崩壊の失敗を教訓とするならば金融機関の不良資産を買い取る専門の銀行いわゆるバッドバンク構想は金融危機を回避する最良の方法といえます。日本が1989年のバブル崩壊後いろいろな景気対策を実行し3回ほど上昇相場(1993年、1995年、1998年)がございましたが、結局は下降トレンドを抜けだせず14年間の長期下降トレンドとなりました。それは銀行が不良債権をかかえたままでしたので、貸し渋り、貸しはがしが続き、日本の景気が本格回復するにいたりませんでした。その後、りそな銀行への政府の救済があってそれをきっかけに本格回復となりました。そういう意味では日本の失敗例を参考として金融機関の不良債権を早目に処理してやれば景気は予想以上に早く回復する可能性があります。ところがこの「バッドバンク」構想には問題点も多く共和党と民主党が党政略をこえて協力しない限り実現は難しいといえます。

政府は昨年10月に成立した金融安定化法を使い、大手銀行などに資金を注入してきましたが、不良資産をかかえたままでは、その資金は損失処理にあてられるだけで、借り手のためになる融資拡大に結びつかず、貸し渋りが続いていることが明らかになってきました。そのためFRBの関係者の間でも不良資産の大部分を政府が引き受けて銀行の損失を限定するのが先決だとの見方が強まって、オバマ政権による「バッドバンク設立」構想がでてきたわけです。しかし、買い取り価格の設定や最大4兆ドル(360兆円)と見込まれている費用の財源など課題多く、小さな政府を目指す共和党には受け入れ難い構想といえます。

以上の他にオバマ政権は人事面でもつまづいてきました。任命した閣僚が3名も納税義務を果たしておらず、辞任に追い込まれたことです。今後も議会運営に大きな不安を残しています。

<本日、日経平均は1/26の7671円を切って1回目の買い場に突入>

今回使っている暴落の暗示の暴落は昨年10月の底がみえないような暴落にはならないとみています。それは、金融不安にしろ景気後退にしろ、それを悪材料として催促相場が起こって大きく下げた時は、各国の政府が対策を打ってくるからです。このことは先週のG7で合意されました。だから、ここで使う暴落はいったん戻しても再び最安値を切って大きく下げることの意味します。昨年の11/20に7552ドルの最安値をつけて、1/6に9175ドルまで戻り、再び大きく下げて11/20の7552ドルを切ってくるような動きは暴落といってよいでしょう。昨日はGMやクライスラーの経営再建策が発表される前に格付け会社のムーディーズが業績や旧ソ連圏に進出している欧米の金融機関の格下げを示唆したことをきっかけに、一部銀行の国有化懸念もでて金融株中心に急落となって297ドルの7552ドルとなりました。今晚のアメリカ市場でGMやクライスラーの経営再建策がどう受け取られるかによって、7552ドルのダブル底からの目先の戻りか、それとも一気にもう一段安に向かうのかとなります。

日経平均は、本日は111円の7534円で引けました、再び日経平均の指数とNYダウの指数がほぼ同じになってきました。ということは、今晚NYダウが7552ドルのダブル底からいったん反発すれば、日経平均も今日の水準から反発することになります。すでに、買い水準を1回目は7500円水準(7400円~7600円ゾーン)2回目を7000円水準(7000円前後~7200円)としていますが、この1回目の買い水準に到達しました。もし日経平均が上昇に転じてきたら、それを追って買うのではなく、買った銘柄をどこで利益確定するのか考えることとなります。相場は戻り相場が続くので利食ったあとは再び下落を待つこととなります。戻りが鈍ければ早い時期に7000円を試す動きとなるかもしれません。もし、NYダウがGMとクライスラーの再建策を嫌気して大きく下げるとNYダウは7000ドルを試す動きとなり、日経平均も同じく7000円水準を試すことになって2回目の買い場がやってきます。

「金のなる木」の会員の方はか の水準で買えてきたと思います。現在の相場は戻り相場ですので、ある程度上昇しても株価は下落してきます。長く保有する人はそのような株価の動きに耐えなければなりません。それがどうしてもいやであれば日経平均がいったん大きく戻して、それにつれ安して上昇し、少しでも利益がとれるようならばいったん利益確定するというところを実行した方がよいでしょう。

儲かる投資はタイミングで決まる

どんな投資であれ、重要なことは投資に振り回されないことです。儲かる銘柄はないかと追いつけている人は、証券マンの囁きや新聞、雑誌あるいはネット情報で「これが買いだ」というニュースが流れるとすぐ飛びのったりします。全体相場が上昇トレンドにあれば急騰した銘柄に飛びのって儲けることもありますが、ほとんど高値づかみとなってしまいます。投資はタイミングで決まるといわれますが、そのタイミングとは急騰した銘柄にうまく飛びのるということではありません。タイミングというは一瞬の時間に合わせてというイメージになりますが、投資でのタイミングとは先回りしてチャンスを待つこととなります。「チャンスは追いかけるものではなく、先回りして待つもの」と考えれば時間はかかっても大きな儲けを手にすることができます。

相場というものは上昇し続けることも下落し続けることもありません。そうであれば大きく下落したところを待って買うというタイミングをつかむことが大切となります。問題は「どこが大きく下がったところか」という問題がでてきます。株式市場は「買い手」

と「売り手」の欲望と恐怖によって動かされています。そのため相場を取り巻く環境は突然変化する場合も多く株式市場の予測は本来不可能といえます。罫線とかチャートといわれるものは過去の売買の痕跡にすぎないという見方をする人もいますが、罫線の形というものは「売り手と買い手」の「欲望と恐怖」の戦いの痕跡といえます。人間の欲望と恐怖は本能にもとづくものであるため未来永劫続くものだとすれば、罫線で形づくられるあるパターンは買い手が有利か売り手が有利かを確率的に示すパターンでもあるといえます。

私の利用する柴田罫線をそのように考えれば、大底圏でもみあって買法則が出現したりすると1つのシグナルとして考え、これをベースに他のテクニカルやファンダメンタルを参考にして判断します。それでもピンポイントであてることは誰にもできませんので、もう一段下があることを想定し2~3回に分けて買うということになります。

今回は自律で動けない日本市場を見るのではなく、NY ダウの動きをみて暴落暗示を読み取り、それに到達し、もう1つの7000円水準を待ってみることになります。そして、そのような動きになってきていますので、上述した「チャンスは追いかけるものではなく、先回りして待つもの」ということが実践できることになります。

業種	コード 銘柄	2/18の 終値	買いポイント	テーマ材料	コメント
卸売	8088 岩谷産業	213円	190~200円台 170~180円 160円前後	新工ネ関連	燃料電池関連
機械	6364 北越工業	116円	110~116円前後 90~100円	世界的な景気対策 による公共事業の 拡大	工事現場で使う コンプレッサー や発動機が主力

柴田野線「諺」一〇八話集

(柴田秋豊氏の長男)野線継承者 柴田 豊秋

～ 柴田野線「諺」108話集への思い ～

想い起こせば十九才より父に弟子入りし野線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にといい老骨に鞭打ち打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。

親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし史料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思いい立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教えを受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後野線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。確かに父が研究し編み出した野線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み野線の復興に取り組んだが北海道の野線屋一と揶揄され軽視されました。今日では野線は「チャート」と呼ばれているが私は野線と云う単語に愛着があり今後も野線という文章一本で表現したいと思っております。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあったが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っており感謝しております。普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書きつづけ死が来る迄、研究、野線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの助となればとの思いから野線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智慧の結晶だと思っている。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常の生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。

私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出勤に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田野線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思いい信じている。投機、投資家は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

豊秋

※このページは初めての方のために毎回記載します
柴田秋豊氏に興味がある方は自伝を漫画化したものがあります。ズバ株 HP のトップページにございます
<http://www.zubakabu80.com/>

第四話 研究こそ必勝への近道

相場に拘わらず如何なる事業、家業、仕事も同業者の動向、立地条件等々あらゆる研究をして始めて「プロジェクト」が生まれ本格的に社運を賭けての事業に取り組む反面、相場の投機、投資には一瞬にして損益が明暗として表れるのが相場投資である事を肝に銘じることを忘れてはならない。研究を忘れ怠り唯々儲かる儲かるの歌い文句、宣伝に乗せられないよう「後悔先に立たず」。

第五話 相場投資もビジネスも研究が必要

前項でも述べた通り、規模の大小に拘わらずビジネスを立ち上げるのに莫大な資本投下するからには社員教育、店舗の立地条件、商品の仕入れ、販路の拡張等々事前に綿密な計画が不可欠である。相場投資は売と買の二通りで確立、随分と簡単である。資金があれば誰でも労力を使わず参加して一瞬にして何百、何千、何億円の損益が生じるのが相場投資であると同時に反面大変危険な業種でもあり、研究を疎かに後回しにする。自己責任時代とはいえ、相場投資には必ず「リスク」が付き物で気がつけば破滅、家庭崩壊とならないよう。ネットの普及で株式・商品相場のブームを巻き起こしているが危機感、憂いを感じる、自信を確信する迄安易に取り掛からない事が肝要である。

第六話 研究後回しで投資を急ぐのが普通

残念なことに、今日の投資家は目先の利益を追う事に夢中となり、損をした時の「リスク」の事は念頭にない。私は経済学者、評論家でもない、十九才より父を師として五十数年野線観測しか知らない。もし投資家が他の分野で信じ得る投資法があれば野線にこだわらずに自分が納得を得た上で研究して投資に踏み切っても遅くはないのではないか。

途中入会の方のために発行済みレポートがご覧になれます。(PDF形式)

2008/12/04 創刊号(特別1号)

http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20081204.pdf

2008/12/18 特別2号

http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20081218.pdf

2008/12/25 臨時特別号

http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20081225.pdf

2009/01/08 第1号

http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20090108.pdf

2009/01/16 臨時号(1)

http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20090116.pdf

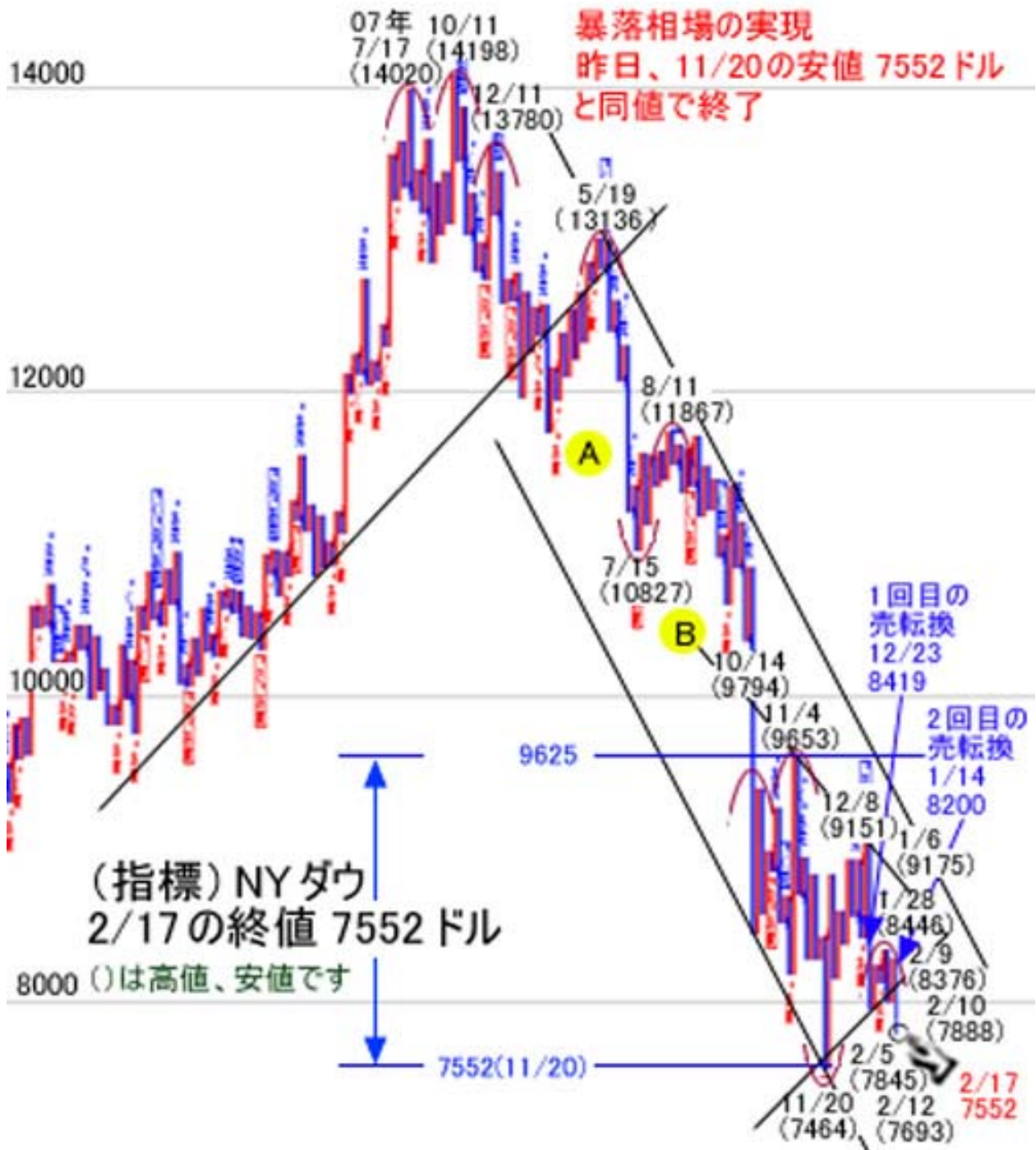
2009/01/22 第2号

http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20090122.pdf

2009/02/05 第3号

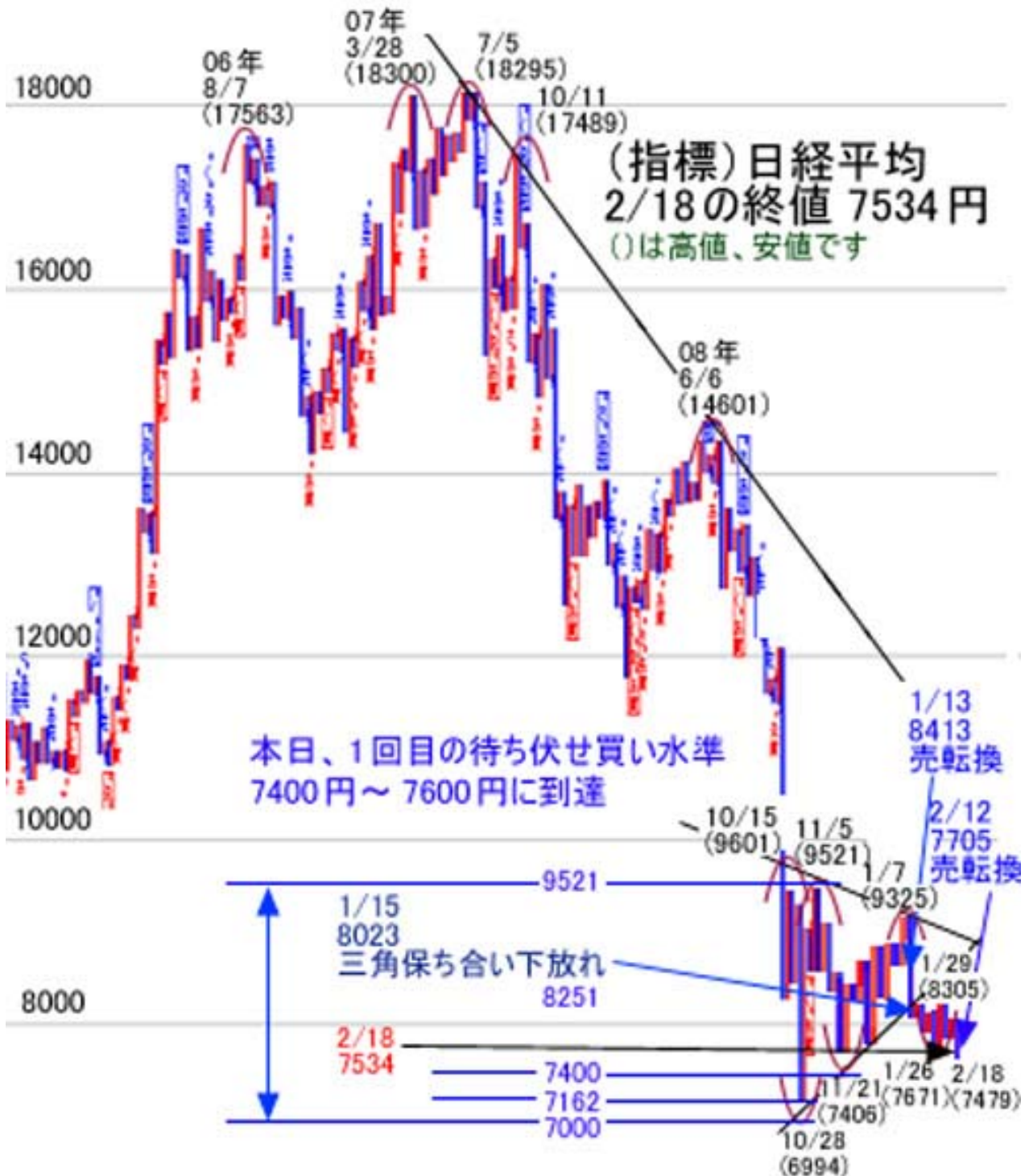
http://www.zubakabu80.com/sisan_history/20090205.pdf

NYダウ



12/23の8419ドルで柴田罫線に1回目の売転換が出現し、続いて1/14の8200ドルで2回目の売転換が出現したことで暴落暗示というメッセージを会員の方に出しました。その後、いったん戻して1/28に8446ドルをつけたところで「ろあ買」が出現し、暴落暗示先送りとなりました。三角保ち合いの(B)の下値抵抗ライン近辺でしばらくもみあっていました。前回(2/5号)は先送りとなっている暴落暗示はどこででてくるかとしましたが、2/10(火)に381ドルの7888ドルとなって、三角保ち合いを下放れし、再び売転換の状態となりました。そして、昨日297ドルの7552ドルとなって11/20の終値での最安値7552ドルと同値で引けました。本日の引け後のGMとクライスラーの再建案を市場が受け入れなければそのまま下落して、11/21のザラ場安値7392ドルを試し、ここで止まらなければ7000ドルの大口を試すこととなります。逆に再構築がとりあえず好感されれば、11/20の7552ドルと2/17の7552ドルがダブル底の形となって反発し、暴落相場の1ラウンドがいったん終わることとなります。この場合は8000ドルを回復せずに再下落となって7552ドルを切ってくる時には、より大きな暴落相場の第2ラウンドとなる可能性があります。

日経平均



自律的に動けない日経平均は、NYダウに連動しながらも、NYダウよりも早くから三角保ち合いを下放れとなっていました。

日経平均は昨年の10/28に6994円の最安値をつけて11/5の9521円まで反発し、6994円を最安値とし、9521円を高値とする三角保ち合いを形成していました。それが今年になって1/7の9325円を戻り高値に下落となり、1/13に8413円で売転換が出現し、1/15には8023円の終値で三角保ち合いを下放れました。NYダウの下放れは2/10(火)の▲381ドルの7888ドルですので、約1ヶ月ほど先に日経平均のチャートが悪化していたこととなります。2/16(月)発表された10~12月期GDPが年率▲12.7%(米国▲3.8%、ユーロ圏▲5.7%)と世界で最も悪化していたのをチャートが表していることとなります。そして、本日は1/26の7671円を切って7479円まであって終値は▲111円の7534円となりました。NYダウが一段安となれば11/21の7406円は大きなフシではありませんので7000円~7200円ゾーンにはいっていき可能性が高いかもしれません。